

教育目標

- 自ら学ぶ生徒
- 自他を思いやる生徒
- 健康でたくましい生徒

学校だより

ひらく



第19号

平成27年10月20日発行

須賀川市立第三中学校

TEL 73-2377

発行責任者：校長 高崎則行

一人一人の個性が輝く

伝統の「華王祭」

平成27年10月15日（木）～16日（金）の2日間、テーマ「空まで響け！～希望に満ちた僕らの輝きを～」の下で、本校の校内文化祭「華王祭」が開催されました。「普段は見ることのできない個々の生徒の一面を見ることができました。」という表現では間に合わないほど、一人一人の生徒が自分の意欲や思いを表に出して演技や発表を行い、個性を余すことなく発揮し、仲間との一体感を育んでいました。その姿は、すべての生徒は宝石の原石のような可能性の固まりであることをあらためて実感させてくれました。今日のような取り組みができるのだから、本校生徒は何事においてももっと伸びるはずだと確信しました。また、今年度は、須賀川三小の6年生が発表を見学していきました。

第1日 ウンウンとうなずく生徒

一日目の終わりに二瓶教務主任が、素晴らしく盛り上がり楽しさを味わった喜びを述べて、「この盛り上がりを他の場面でも発揮してください。」と講評を述べた時、最前列の女子生徒が小さくウンウンとうなずいている姿が目に入りました。生徒の大きな可能性に感動していたところなので、私たちの願いが胸に届いたんだと本当に嬉しくなりました。

午前中は、オープニングセレモニーに引き続き、2年生と3年生のステージ発表、展示見学、午後はミニ運動会が行われました。



オープニングセレモニーでは、生徒会役員の文化祭までの準備の一コマがコント仕立てで演じられ、その後盛大に開会宣言がなされました。

2年生のステージ発表は、夏休みに実施した職場体験の発表です。4つの代表グループが寸劇で再現しながら具体的な発表をしました。その後のまとめの発表からは、職業選択への意欲や希望の実現に向けての意欲が感じられました。

3年生は、演劇「ロミオとジュリエット」。ロミオが服毒自殺を遂げる有名な場面を冒頭に持ってきて、現代の須賀川三中にロミオとジュリエットが生まれ変わるといふ、渡邊裕里さんと西間木柊弥くんが中心になって作ったオリジナルストーリーです。劇中では、マイケルジャクソンの“スリラー”に乗ってダンスも披露され、本編の劇はステージの上や客席、はてはギャラリーまで使ってダイナミックに演じられました。

いずれの発表も、アイディア豊かで感心させられます。また、ユニークな場面も真剣に演じている様子は、表に現れた輝きだけでなく、内面の輝きも感じさせてくれました。



第2日 教員にも広がる喜び

午前中は、審査・表彰の対象となる三中の主張大会、学級旗コンクール、合唱コンクール。

三中の主張大会では、どの生徒も表現意欲の高いことに驚かされました。そして、人を惹きつける話術の巧みさで順位が決した感がありました。また、学級旗は、学級に対する思い・願いをテーマにしてその意図を見事に図柄に表現していました。

そして、圧巻は合唱コンクールです。三中の主張は個人、学級旗は係の取り組みですが、合唱には、学級の団結がよくあらわれます。学級担任は、まず一人一人の口元に目を凝らし、大きく口を開けてしっかり声を出しているかを見ていたはずですが、一人残らず心を合わせている姿こそが、最も探し当てたい学級の鉱脈なのです。先生方の反省会では、例年よりも1、2年生のレベルが高かったという感想が聞かれました。しかしなお、下級生をうならせる3年生の合唱だったという評価でした。

午後は、特設合唱部と吹奏楽部による発表、エンディングセレモニーです。特設合唱部、吹奏楽部ともに、この日のために短期間で練習した楽曲を披露し、演奏技能の高さを発揮します。また、すべての3年生に出番のある、いつまでも聴いていたいと思わせる素敵な発表会となりました。

この日も、一人一人の持つ大きな可能性に気付くことができました。生徒たちは、ご来場いただいたご家族の皆さんに大きな喜びをもたらしたのではないかと思います。実は、生徒たちの様々なパフォーマンスは、私たち教職員にも「やってよかった！」という充足感を与えてくれました。

エンディングセレモニーでは、旧生徒会役員から1、2年生の新生徒会へ引継ぎが行われました。いよいよ2年生が中心となって本校生徒会の伝統が継承されるのです。



私としては、一つ悔いが残ってしまいました。それは、表彰式で「最優秀伴奏者賞」をうまく言えなかったこと。「サイユウシュウバンソウシャ ショウ」 皆さん、噛まずに言えますか？